

美術科学習指導案

3年3組 指導者 長塩 桂子

I 題材名 自己を見つめて（自画像）

II 考察

1 生徒の実態

（男子13名・女子15名 計28名）

<関心・意欲・態度>

3年3組の生徒は、学習に比較的落ち着いて取り組むことができる。しかし、表現意図が曖昧で、表現の工夫に乏しく、自分の思いや願いを追求する姿勢が弱い。2年次の学習では、モダンテクニックの効果に興味をもち、実習を楽しむ姿が多く見られた。興味・関心の高い生徒は、夏休み課題のポスターや絵画に、モダンテクニックを活用している。また、頭像の制作では、友達を観察し、頭部のつりあいを意識しながらスケッチや粘土による立体表現に取り組もうとする姿が見られた。

<発想や構想の能力>

2年次のポスターの制作では、自分の訴えたいテーマを選び、アイディアスケッチを重ねながら、モダンテクニック等を用いて効果的に伝えるための構想を練ることができた。頭像の制作では、観察をもとに友達の頭部をスケッチし、友達の人柄や性格を表すのにふさわしい表情を考えることができた。しかし、いずれの場合も個人差が大きく、技能面で自信のもてない生徒は、発想や構想でもつまずきがちで、表現意図が曖昧なまま制作に入ってしまうこともあった。

<創造的な技能>

1年次の色彩の学習では、色彩の基礎知識を学び、自然から見つけた色を水彩絵の具で表現することができた。2年次のモダンテクニックの学習では、8種類の技法を体験し、用具の扱いに慣れ、偶然性を生かした試作をつくることができた。その後のポスターの制作でも、学んだ技法を効果的に活用し、自分の訴えたいことを表現していた。しかし、色彩の知識やモダンテクニックの活用が全く見られない乱雑な作品もあり、表現力の個人差が大きい。頭像の制作では、観察をもとに頭部のつりあいをとらえ、あらづけによって大まかな塊を表現することができた。また、途中の肉付けや細部の作り方を教師の実演によって伝えたところ、全員が作品を完成させることができた。しかし、モデルとなった友達の人柄や性格まで表せた作品は少なかった。

<鑑賞の能力>

奈良や京都の文化遺産や教科書・美術資料を活用した名画等の鑑賞に興味をもつ生徒が多く、作者の表現意図や多様な表現のよさを味わい、感想を自分なりの言葉で簡単な文章にまとめることができる。また、ほとんどの生徒は、先輩や同級生の作品を見ることを好み、表現技能の高い作品にあこがれをもっている。反面、自分の作品を見られることを嫌う生徒が多く、表現のよさに気づけない傾向がある。

2 題材の考察

3年生は、進路選択に際し、自分自身について考え、向き合わなければならない。そのため、自分を見つめ、思いや願いを表現する題材が適している。そこで、題材は、生徒が自分自身を内側と外側の両面から見つめることができる「自画像」とした。

学習指導要領では、第2学年及び第3学年の表現の内容①「絵や彫刻などに表現する活動」において、「対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情など心の世界をスケッチに表すこと」や「主題を発想し、スケッチなどを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、構成の仕方、材料の組み合わせなどを工夫し、心豊かな表現の構想を練ること」、「(略)自分の表現意図に合う新たな表現方法を研究するなどして創造的に表現すること」等が示されている。対象を深く見つめ心の世界を表すためには、観察の対象を愛着のある自分の思いのこもったものにするといよい。自画像は観察の対象が自分自身であるため、他者に遠慮することなくじっくりと観察し表現できるといったよさがある。また、心豊かな表現の構想を練るためには、対象となる自分を見つめて、心の中に表したいイメージをもつとよい。さらに、そのイメージを創造的に表現するためには、表現意図に適した色彩や表現技法を選択する必要がある。本題材で生徒は、自分自身を内側と外側から見つめることによって表現意図を明らかにし、色彩と表現技法を選んで思いや願いを表現することができる。こうしたことから、本題材で取り上げる自画像は、3年生にとってふさわしい題材と考える。また、義務教育最後の絵画作品として、じっくりと自分自身の姿を見つめて描く機会をもたせたい、という教師の願いもある。そこで、観察をもとに自分の手を使って描く自画像を題材とした。

学習は、まず、自分にふさわしい色彩（自分色＝identity color）と2年次に学んだモダンテクニック（現代美術が生み出した様々な造形表現技法のこと）を生かして、今の自分を表す下地をつくることから始まる。なお、この活動は、自画像の下地づくりとともに、モダンテクニックを生かしたデザイン領域の表現や抽象画の表現としてもとらえることができる。これは、生徒のよさを多面的にとらえるため、ひとつの題材の中にデザイン領域と絵画領域が含まれるように工夫したものである。次に、下描きの構想段階では、鏡に自分の顔を映しながら自分の性格や今の気持ちにふさわしい表情と画面構成を考える。そして、観察をもとに頭部のつりあいや立体感をとらえて下描きを行い、自分の外面的な特徴を表す。彩色の構想段階では、下地や下描きを生かす配色を考える。そして、観察をもとに水彩画の基礎技法を生かして色を塗り、思いや願いを表現する自画像を完成させる。作品完成時には、相互鑑賞を行い、友達の作品の表現意図を理解し、自他の作品の工夫やよさに気づき、自己表現の喜びを味わう。また、下描き開始時に行う画家の自画像の鑑賞や、制作途中に参考作品として提示される同学年の生徒作品から、多様な表現のよさを味わう。完成作品は、校内文化祭に展示する。

このように、下地の抽象的な表現と下描きと彩色の観察をもとにした表現を組み合わせることによって、生徒が自分を見つめ、表現意図を明らかにして、思いや願いを表現することができると考え、本題材を設定した。

なお、本題材で取り入れた自分を見つめて表現する態度や能力は、今後取り上げる「篆刻」による氏名印づくりにも生かし、個性的な作品の創造を目指していきたい。

3 題材の系統性

これまでに、生徒は表現領域において、1年次に色彩の基礎知識を色づくりを通して学び、2年次にモダンテクニックの実習を行ってきた。そして、実習を通して学んだ色彩の知識やモダン

テクニックを生かし、夏休みの課題としてポスターや絵画の制作に取り組んでいる。また、2年次に友達をモデルにした頭像（彫刻）を制作し、構想段階のスケッチや粘土による制作を通して頭部のつりあいについて学んでいる。

<表現領域で色彩とモダンテクニック、頭部のつりあいについて扱った題材>

学年	題材名	学習内容
第1学年	色って何だ？	・光線 ・有彩色と無彩色
	こんな色できるかな？	・明度と彩度のグラデーション ・色相環と三原色
	虹色の風景	・自然から見つけた色を水彩絵の具で表現する
第2学年	モダンテクニック	・技法に触れ、表現の手段として活用する力を身につける
	ポスターの制作	・自分の訴えたいことを伝える表現技法を選んで、効果的に表現する力を育てる
	人柄や性格をとらえて ～友達の頭像～	・頭部のつりあいを観察しながら、モデルとなった友人の人柄や性格をとらえて表現する

4 指導方針

- ・個別指導を通して、表現の工夫やよさを認め、個に応じた助言を与えることによって、生徒が自信をもって表せるようにする。
- ・参考作品の提示を通して、表現の工夫を促し、具体例をもとにわかりやすく説明する。
- ・表現技法の説明には、OHCを活用した実演を行い、わかりやすく伝える。
- ・色彩の選択に際してカラーコミュニケーションの考え方を紹介し、生徒が数色の自分色を選べるようにする。
- ・下描きの構想段階では、4人の画家の自画像をもとに、その生涯や作品に関わるエピソードを紹介し、生徒が多様な表現のよさを味わえるようにする。
- ・下描きでは、鏡と鉛筆を使って頭部のつりあいや立体感をとらえる方法を実演し、生徒が視覚と触覚を同時に使って、自分の外面的な特徴を描けるようにする。
- ・彩色では、各段階の色の塗り方を実演し、生徒が大まかな色調や立体感をとらえてから、水彩画の基礎技法を生かして色を塗れるようにする。
- ・完成作品の鑑賞では、ワークシートに自他の作品の表現意図や表現の工夫、表現のよさをまとめ、グループ内で発表し合うことによって自己表現の喜びが味わえるようにする。
- ・3年生全員の作品を校内文化祭で展示し、全校生徒や保護者等に公開するとともに、学年全員の作品を鑑賞できるようにする。

Ⅲ 目標

自分自身を内側と外側の両面から見つめ、表現意図を明らかにして、抽象的な下地と観察をもとにした人物表現を組み合わせ、自分の思いや願いを表現する自画像を制作する。

IV 評価規準

美術への関心 ・意欲・態度	・自分自身を内側と外側の両面から見つめ、表現意図を明らかにして、表現の工夫やよさを実感し、思いや願いを自画像で表現しようとする。
発想や構想の能力	・自分の内面を見つめて抽象的な下地の構想を練り、自分の外面的な特徴を観察して、表現意図に適した下描きや彩色の構想を練ることができる。
創造的な技能	・自分の性格や気持ちにふさわしい色彩と表現技法を用いて抽象的な下地をつくり、観察をもとに頭部のつりあいや立体感をとらえて外面的な特徴を描き、水彩画の基礎技法を生かして表現意図に適した彩色を行い、思いや願いを表現する自画像を制作することができる。
鑑賞の能力	・参考作品や友達の作品の表現意図を理解し、自他の作品の工夫やよさに気づき、自己表現の喜びを味わうことができる。

V 指導と評価の計画（全13時間計画）

過程	時間	主な学習活動	学習活動の具体的評価規準 □は評価方法	支援及び指導上の留意点
発想・構想	1	・自分を見つめ、自分の性格や今の気持ちなどにふさわしい色彩、「自分色」を選ぶ。 ・自分色とモダンテクニックを用いて試作を行い、自分の内面を表す表現技法を選ぶ。	・色彩と表現技法の効果に興味をもち、自分を見つめ、性格や今の気持ちを考えようとしている。 <関心・意欲・態度> ・自分の内面を表すのにふさわしい配色や表現を発想し、色彩と表現技法を効果的に用いて、試作に表すことができる。<発想や構想の能力> 活動の様子、ワークシート	・色彩の選択に際してカラーコミュニケーションの考え方を紹介し、数色の自分色を選ぶよう伝える。 ・自分色とモダンテクニックを用いて試作を行い、配色や表現の効果を確かめることを、OHCを活用した実演を通して伝える。
	2	・自分色とモダンテクニックを用いて、自分の内面を表す抽象的な下地をつくる。	・表現意図を明らかにして、色彩と表現技法を生かし、下地をつくらうとしている。<関心・意欲・態度> ・試作での工夫を発展させながら、自分の内面を表す抽象的な下地をつくることことができる。<創造的な技能> 活動の様子、自己評価表 下地の完成作品	・同級生の参考作品を提示し、試作での工夫を発展させられよう具体例をもとに助言する。 ・個別支援を通して、配色や表現のよさを認め、自信をもって表せるようにする。 ・配色や表現のよさが表れない場合は、美しく見える配色例や他の表現技法と組み合わせること等を参考作品や実演を通して紹介し、表現の工夫が行えるようにする。
鑑賞	1	・参考作品を鑑賞し、作者の表現意図や多様な表現方法を知る。	・参考作品の表現意図を理解し、多様な表現のよさを味わうことができる。 <鑑賞の能力> 活動の様子、ワークシート	・画家の生涯や作品に関わるエピソードを紹介し、興味を喚起する。 ・色彩や表現技法が対照的な作品を選び、制作年代が近いにもかかわらず、作者の思いや願いによって表現が大きく異なることに気づけるようにする。
発想・構想	4	・自分の性格や今の気持ちにふさわしい表情と画面構成を考える。 ・観察をもとに頭部のつりあいや立体感をとらえ、自分の特徴を表した下描きをする。	・自分の性格や今の気持ちにふさわしい表情と画面構成を考えることができる。<発想や構想の能力> 活動の様子、ワークシート ・観察しながら特徴を意図的に描こうとしている。<関心・意欲・態度> ・観察をもとに頭部のつりあいや立体感をとらえ、自分の特徴を描くことが	・自分の性格や気持ちに適した表情が考えられるようにするため、画家の自画像を提示し、角度によって表情が異なることを伝える。 ・参考作品を提示し、表情や画面構成の効果を具体例をもとに伝える。 ・鏡と鉛筆を使って部分と全体のバランスを見る方法や手で触って面をとらえる方法を実演し、頭部のつりあいや立体感を意識しながら描くよう伝える。 ・個別支援を通して、表現の工夫やよさを認め、自信

表 現		できる。 <創造的な技能> 活動の様子、自己評価表 下描き完成作品	をもって表せるようにする。 ・表現の工夫やよさが表れない場合は、頭部のつりあいや立体感をとらえる方法を個別指導し、表現の工夫が行えるようにする。	
発 想 ・ 構 想	4 本 時 は 1 ／ 4	・下地の色調や下描きの表情にふさわしい配色を考え、下塗りや明るい部分の彩色を行い、配色の効果を確かめる。 ・観察をもとに、水彩画の基礎技法を生かして暗い部分の彩色を行い、大まかな立体感を表す。 ・観察をもとに、水彩画の基礎技法を生かして明暗の中間部分や細部を彩色し、自画像を仕上げる。	・彩色に興味をもち、下地の色調や下描きの表情にふさわしい配色で表現しようとしている。 <関心・意欲・態度> ・下地の色調や下描きの表情にふさわしい配色を考えることができる。 <発想や構想の能力> ・下塗りや明るい部分の彩色を行い、配色の効果を確かめながら色を塗ることができる。<創造的な技能> 活動の様子、自己評価表 彩色途中作品 ・観察をもとに、水彩画の基礎技法を生かした彩色を行い、表現のよさを味わいながら、思いや願いを表現する自画像を制作することができる。 <創造的な技能> 活動の様子、自己評価表 彩色完成作品	・下地の色調や下描きの表情にふさわしい配色を考えられるよう、参考作品を提示し、配色の効果を伝える。 ・下塗りの淡彩と明るい部分の彩色によって、配色の効果を確かめるよう、OHCを活用した実演を通して伝える。 ・個別支援を通して、表現の工夫やよさを認め、下描きから下塗りへ自信をもって進めるようにする。 ・表現の工夫やよさが表れない場合は、配色や表したいイメージについて対話や実演等を通して個別指導し、下描きから下塗りへ進めるようにする。 ・水彩画の基礎技法を生かして暗い部分を彩色し、大まかな立体感を表すよう、OHCを活用した実演を通して伝える。 ・個別支援を通して、表現の工夫やよさを認め、下塗りから色調を強める彩色へ自信をもって進めるようにする。 ・表現の工夫やよさが表れない場合は、混色の方法や水の量等について参考作品の提示や実演を通して個別指導し、下塗りから色調を強める彩色へ進めるようにする。 ・水彩画の基礎技法を生かして仕上げの彩色ができるよう、参考作品を提示し、色彩や表現方法のよさを紹介する。 ・個別支援を通して、彩色のよさを認め、個に応じた助言を与えることによって表現のよさを味わえるようにする。 ・彩色のよさが表れない場合は、水彩画の基礎技法について参考作品の提示や実演を通して個別指導し、表現の工夫ができるようにする。
鑑 賞	1	・完成作品を鑑賞し、自他の作品のよさを味わい自己表現の喜びを味わう。	・自他の作品のよさを味わおうとしている。(関心・意欲・態度) ・自他の作品のよさを伝え合い、自己表現の喜びを味わうことができる。(鑑賞の能力) 活動の様子、ワークシート	・完成した作品を鑑賞し、ワークシートに自他の作品の表現意図や表現の工夫、表現のよさをまとめ、グループ内で発表し合うことによって自己表現の喜びを味わえるようにする。

VI 本時の学習（9／13時間）

1 ねらい

下地や下描きを生かす配色を考え、観察をもとに下塗りや明るい部分の色を塗り、配色の効果を確かめながら、思いや願いを表現する自画像の彩色をする。

2 準備

（教師）生徒参考作品、OHC、鏡、アクリル絵の具のセット、色相環（掛け図）

(生徒) 自己評価表、筆記用具、鏡、アクリル絵の具のセット

3 展開

過程	時間	主な学習活動	学習活動の評価規準 □は評価方法	支援及び指導上の留意点 ○は一斉 ・は個別
導入	15	<p>○本時の学習内容を知る。</p> <p>・「下地の色調や下描きの表情にふさわしい配色を考え、下塗りと明るい部分の色を塗り、配色の効果を確かめる。」</p> <p>○本時の自己目標を立てる。</p>	<p>・彩色に興味をもち、自分の進度にあった自己目標を立てようとしている。</p> <p><関心・意欲・態度></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自己評価表</div>	<p>○自己評価表をもとに下塗りと明るい部分の彩色を行うことを確認できるようにする。</p> <p>○下地や下描きを生かした配色を考えることができるよう、参考作品を提示し、表現意図や配色のよさを紹介する。</p> <p>○下塗りの淡彩と明るい部分の彩色によって、大まかな色調をつかみ、配色の効果を確かめるよう、OHCを活用した実演を通して伝える。</p> <p>○自己目標の書き方を具体的に伝え、「どのような色彩や配色で、どんな風に表したいか」を明確にできるようにする。</p> <p>・下描きが完成している生徒には、具体的な色彩や配色を考えるよう伝える。</p> <p>・下描きが未完成の生徒には、各自の進み具合に合わせて声をかけることによって、自分の進度にふさわしい目標が立てられるようにする。</p>
		<p>○下地と下描きを生かす配色を考え、淡彩による下塗りを行う。</p> <p>・下地に用いた自分色や下描きの自分の表情に合わせて肌や髪の色を選ぶ。</p> <p>・イメージした色をパレット上で混色することによって作り、淡彩で下塗りを仕上げる。</p> <p>○下塗りの上に明るい部分の色</p>	<p>・彩色に興味をもち、下地と下描きを生かす配色を考え、下塗りに生かそうとしている。</p> <p><関心・意欲・態度></p> <p>・下地と下描きを生かす配色を考え、下塗りに用いる色彩を選ぶことができる。</p> <p><発想や構想の能力></p> <p>・イメージした色をつくり、淡彩で下塗りすることで大まかな色調をつかみ、表現のよさを味わいながら色を塗ることができる。<創造的な技能></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">活動の様子、彩色途中作品</div>	<p>・下描きの完成した生徒には、表現の工夫やよさを認め、下描きから下塗りへ自信をもって進めるようにする。</p> <p>・下描きが未完成の生徒には、仕上げるためにはどこを描けばよいか具体的に示し、本時の後半には下塗りまで進めるよう励まします。</p> <p>○参考作品（生徒作品）や色相環（掛け図）などを黒板に展示していつでも見ることができるようにしておき、必要に応じて活用するよう促す。</p> <p>・表現意図に合った色彩や配色が考えられた生徒には、選んだ色彩や配色のよさを認め、自信をもって進められるようにする。</p> <p>・色彩や配色が考えられない生徒には、下地に用いた自分色や参考作品の配色をもとに選ぶよう助言する。</p> <p>・イメージをもとに工夫して下塗りをしている生徒には、そのよさを認め、自信をもって進められるようにする。</p> <p>・下塗りが始められない生徒には、イメージした色をつくるためにはどのような色を混ぜたらよいか助言する。</p> <p>・下塗りの完成した生徒には、表現の工夫やよさを認め、下塗りから明るい部分の彩色へ自信をもって進めるようにする。</p>
展開	30			

	<p>を重ね、配色の効果を確かめながら、彩色を進める。</p> <p>・肌の下塗りに用いた色に白などの明度の高い色を混色することによって、顔の明るい部分の色をつくる。</p> <p>・顔の明るい部分の色を下塗りの上に重ね塗りすることによって、色調を強めていく。</p>	<p>よって、色調を強めようとしている。＜関心・意欲・態度＞</p> <p>・下塗りを生かした明るい部分の色を選び、効果的な塗り方を考えることができる。</p> <p>＜発想や構想の能力＞</p> <p>・明るい部分の色をつくり、下塗りの上に重ね塗りすることによって色調を強め、配色の効果を確かめながら、色を塗ることができる。＜創造的な技能＞</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活動の様子、彩色途中作品</p>	<p>・下塗りが未完成の生徒には、自分らしい色彩が選べるよう、参考作品（生徒作品）や色相環（掛け図）などを参考にしてふさわしい色彩や配色を具体的に示し、本時の終了時には下塗りを完成させられるよう励ます。</p> <p>・明るい部分の色がつくり始められた生徒には、色彩や配色のよさを認め、自信をもって進められるようにする。</p> <p>・明るい部分の色がつくり始められない生徒には、下塗りに用いた色をもとに明度の高い色と混色してみるよう助言してイメージがもてるようにしたり、混色や水の量の調節の仕方を助言したりする。</p> <p>・明るい部分の彩色が始められた生徒には、そのよさを認め、自信をもって進められるようにする。</p> <p>・明るい部分の彩色が始められない生徒には、観察をもとに微妙な色の変化を表したり、筆のタッチを工夫して色調を強めたりしていけるよう助言する。</p>
<p>終 末</p>	<p>5</p> <p>○自己目標をもとに本時の学習を振り返り、成果や課題を確認する。</p>	<p>・彩色に興味をもち、配色の効果や課題を確認して、次時への意欲と見通しがもてる。</p> <p>＜関心・意欲・態度＞</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自己評価表</p>	<p>○自己評価表に本時の成果と感想、自己評価を記入して、自分の表現のよさや課題を確認し、次時への意欲と見通しがもてるようにする。</p> <p>○きりのよいところで彩色を終了し、用具の片づけが行えるようにする。</p>